

『本学の教員養成に対する理念及び課程設置の趣旨等』

聖心女子大学は、19世紀初頭のフランスで、聖マグダレナ・ソフィア・バラが聖心女子学院を創立した際の教育理念を、世界各地に広がる聖心姉妹校と共有している。

聖心女子大学の創立理念には、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という内容があり、これをもとに本学では、「知性を磨く」、「使命感を自覚する」、「発信力、実践力を高める」という3つの教育目標を定め、これらの資質を持つ人材の養成を目指している。

以上に掲げた3つの教育目標のなかで、とりわけ「使命感を自覚」し、高い「発信力・実践力」を持つ人材というのは、現代社会が期待する教員像とも重なり合うものであり、本学における教職課程設置の趣旨もその点にある。

そこで本学教職課程では、「聖心女子大学の理念」とそのもとでの教育目標を、教育現場において実現できる教員、具体的には下記のような資質を持つ教員の養成を目指している。

1) 幅広い教養と高度な教育技術を備えた教員

一人一人の児童、生徒が本来授かっている「知性」を尊重し、磨き、その潜在力を引き出すために、多様な「知性」に対応できるだけの幅広い教養を身につけ、なおかつその「知性」を最大限に伸ばすことのできる高度な教育技術の習得を目指す。

2) 個人と社会との接点を重視する教員

知性は自らの利益の内に留めておくべきものではなく、人類社会のために活用することで真価が発揮される。「自分の力を社会の中でどう活かせるか」という「使命感」の教育を実践するため、個人の価値を社会との関係性の中でとらえる視点の重要性を習得することを目指す。

3) 理解者、支援者の役割を果たせる教員

使命を果たすためには、自らが発信し、行動することが不可欠となる。発信と行動を実践し、それを貫き通す「折れない心」を育むため、個々の児童、生徒の理解者、支援者としての役割を果たすことの重要性を自覚し、その方法を習得することを目指す。